

指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ 指宿まるごと博物館区「西郷隆盛と海洋国家薩摩」

開催期間：平成29年10月14日（土）～平成30年3月31日（土）



【企画展の内容・目的】

■当館特別企画展「西郷隆盛と海洋国家薩摩 ―明治維新へ指宿が果たした役割―」の中で、「海の学び」につながる章・節と海洋教育へのつながりは下記のとおりである。

第1章 山川港が支えた「海洋国家薩摩」

第1節 「海の道」とアジア・西欧の交差点

【海を知る】南から北へと流れる黒潮と身近な山川港について学ぶ。

【海を利用する】海を利用して西欧と文物の交流について学ぶ。

第2節 琉球口貿易と鹿児島藩 ―鎖国下の玄関口―

【海を利用する】「海の道」の中央に位置する琉球を中継基地とした中国との貿易により海外の品物や情報入手について学び、鹿児島藩港である山川港の重要性を学ぶ。

第2章 薩摩「富国強兵」への道 ―海商たちの活躍―

【海を利用する】琉球と南島の島々から文物を船で運んだ指宿出身の海商について学ぶ。

【海と人との共生】遠浅で船を安心して停泊できない宮ヶ浜沖合に建設された防波堤等について学ぶ。

第3章 世界の海を見据えた斉彬と西郷

【海を利用する】鎖国下の中、海外の技術を導入した集成館事業を展開した島津斉彬が見据えた新たな海洋国家薩摩について学ぶ。

第4章 第4節「海洋国家薩摩の数奇な運命と西郷隆盛」

【海を知る】・【海を利用する】・【海を守る】山川港と「海の道」を有した鹿児島藩が他藩に先駆けて「海洋国家日本」を見据えていたことを学び、その海が目の前にあることを再認識させる。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成29年10月14日（土）～平成30年3月31日（土）
※平成30年4月1日～平成31年3月17日まで自主開催
- 開催場所：指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ 2階特別展示室
- 入場者数：11,309人



指宿市考古博物館 外観



企画展会場 入口



第1章 山川港が支えた「海洋国家薩摩」の展示状況



第1章 市内小学生見学状況

【企画展示の内容】

■【海に親しむ】

南西諸島、琉球、中国へと続く海、その海を利用して文物交流を進めるための山川港などと接することで、【海に親しむ】ことができる。また、船を使ってあらゆる海から運ばれた文物を展示することで海への興味と親しみを芽生えさせる。

■展示の内容

第1章 山川港が支えた「海洋国家薩摩」

縄文時代に九州最大のカルデラ湖できたほぼ同じ頃にできた火口港である山川港。天然の良港として中世には国際貿易港として、江戸時代には鹿児島藩港として栄えた「山川港」について、明治時代に果たした役割と地理的特徴を紹介する。

江戸時代の山川港の鳥瞰図を展示することで、江戸時代の港の賑わいと大きな帆船が出入りしていたかつての様子を視覚的に理解させるように工夫し、【海に親しむ】効果を高められるようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



第1章 山川港鳥瞰図展示状況



琉球漆器等展示・見学状況

【企画展示の内容】

■【海を知る】

海による沖縄・南島の人たちの交流と、江戸時代の海洋国家を進めた薩摩藩の歴史を学ぶことで、人と海との関わりについて関心をもたせ、海について知る機会とする。また、調べ学習の意欲を育てる。

■展示の内容

第1章 山川港が支えた「海洋国家薩摩」

江戸時代の山川港の鳥瞰図を展示することで、江戸時代の港の賑わいと大きな帆船が出入りしていたかつての様子を視覚的に理解させるように工夫した。

また、江戸時代に琉球から運ばれた琉球漆器や、荷物改めを行った津口番所の瓦等を展示し、身近な山川港をより深くの理解させることで、【海を知る】効果を高められるようにした。



第2章の展示状況



「海に学ぶ」について学芸員の話聞く見学者

【企画展示の内容】

■【海を利用する】

琉球を通して琉球口貿易を進めた鹿児島藩。運ばれた多くの下賜品や海産物について学び、さらに、琉球との交易に尽力した海商について知識を深める。このことによって、広い知識や国々と結びつきがあることに気付かせ、海の役割と利用する必要性・大切さを理解させる。

■展示の内容

第1章第2節 琉球口貿易と鹿児島藩 ー鎖国下の玄関口ー

「海の道」の中央に位置する琉球を中継基地とした中国との貿易により海外の品物や情報入手について学び、鹿児島藩港である山川港の重要性について学べるように工夫した。

第2章 薩摩「富国強兵」への道 ー海商たちの貿易ー

琉球と南島の島々から文物を船で運んだ指宿出身の重要性について学べるように工夫した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



第4章第4節の展示状況



「海に学ぶ」展示パネル

【企画展示の内容】

■【海を守る】・【海と人との共生】

身近な山川港について「海の学び」の視点で学習することで、かけがえのない海の環境を次世代へ守り伝えていく必要性を理解させ、その活動を積極的にできる心を育む。

■展示の内容

第4章 第4節 海洋国家薩摩の数奇な運命と西郷隆盛

当特別企画展における「海洋教育」の視点での展示のまとめとしてこの節を設定した。県学者がこの節までの特別展示を見学してきたことで、【海に親しむ】・【海を知る】・【海を利用する】について理解を深めることができるように展示パネルで工夫した。そして、特別企画展の最後の章・節で、【海を守る】ことへの意識が芽生えさせ、さらに、見学者自らが、「海と人との共生」について学び、考え、理解し、自発的・積極的に活動ができる機会を提供した。

【来館者の声】

○質問⑦「そこから『海』についてどんなことを学びましたか」

- ・海は遠く離れたところにもつないでいるんだな・・・(11歳・女性)
- ・海は大切だということ・・・(11歳・女性)
- ・海でつながる歴史に感動しました・・・(75歳・男性)
- ・海に囲まれた日本たがらこそ海の恵みに恵まれて、また、世界の脅威を海から受けても自ら守ってきた素晴らしさあり・・・(60歳・女性)
- ・古い時代より海と関係があったことがよく分かりました・・・(74歳・女性)
- ・海は大切な役割を果たしていた・・・(11歳・男性)
- ・世界と海のとつながりについて興味を持ちました・・・(35歳・女性)
- ・海が私たちの暮らしとこれまでを支えてきたのだと思い、大切にしていきたいと思います・・・(68歳・女性)
- ・過去の時代は海を通して交流して、文化が栄え、近代の世界が形成された・・・(70歳・女性)
- ・海が近くにあったから薩摩はこんなに発展して偉人が多く、また成長へと進んだと思います・・・(59歳・女性)
- ・海は昔からの貿易や経済発展して今につながり、人口減とはいえ大事にしなければならない・・・(44歳・男性)
- ・第4章最期の部分で、これからの「海」を通じての課題を投げかけているところ。歴史から学び自分たちの未来へどうかしていくかを考えることが大切だと思います。素敵な企画展でした！！・・・(37歳・女性)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2. 関連事業の内容

■海の講座〔外部講師による講座〕

【開催日時】①平成29年10月21日（土）13:30～15:00
②平成29年12月 3日（土）13:30～15:00
③平成30年 1月20日（土）13:30～15:00

【開催場所】指宿市考古博物館 講堂・歴史劇場

【参加者数】①80人 ②67人 ③85人

【実施内容・目的】

特別企画展の展示内容について専門的な知識を持っている外部講師を招聘して3回実施した。外部講師には事前に当館特別企画展における「海の学び」に繋がる展示部分について説明を行い、講演の中で、その展示にふれて頂きながら、参加者にその目的が理解できるように依頼した。また、司会を勤める当館学芸員が、講演開始前に助成対象事業であることと、聴講後に特別企画展を見て講演と展示内容の理解を深めて頂けるよう伝えた。



講演状況①

参加者は一言も漏らさず聞いていた



講演状況②

海の役割について学びたい参加者も多い



講師講話状況①

ひ孫から西郷の実像について講話頂く



講師講話状況②

海に囲まれた日本について講話頂いた

講師には事前に特別企画展を見て頂き、助成趣旨を理解して頂いた上で、「海の学び」について講話頂いた。展示資料にふれながら西郷隆盛について講話頂き、「海を利用する」ことについて参加者が学ぶ機会を作った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



講演状況①

島津斉彬と西郷について熱心に学んだ



講師講話状況②

「海の学び」に関連する展示について講話

講師に事前に特別企画展を見て頂き、助成趣旨を理解して頂いた上で「海の学び」に関連する展示にふれながら講話頂いた。展示の島津斉彬が海に囲まれた薩摩藩を、日本を西欧列国の脅威に対して、富国強兵・産業振興を目指したことを伝え、「海を知る」、「海を利用する」ことについて参加者が学ぶ機会を作った。



講演状況①

指宿出身の豪商について熱心に学んだ



講師講話状況②

濱崎と河野の海運業について講話

講師に講演前に特別企画展を見て頂き、展示中で「海の学び」に関する展示にふれながら分かりやすく講話頂いた。指宿出身の海商が運んだ琉球漆器などにふれることで、「海を利用する」ことについて参加者が学ぶ機会を作った。

【来館者の声】

○質問⑦「そこから『海』についてどんなことを学びましたか」

- ・世界と海のつながりに興味を持ちました。・・・(35歳・女性)
- ・海をきれいに守っていかなくては。・・・(55歳・女性)
- ・海が私たちのくらしとこれまでを支えてきたのだと思い、大切にしていきたいと思います。・・・(68歳・女性)
- ・世界とつながっている海。大切だと思った。(37歳・女性)
- ・海があり流通が出来た。・・・(79歳・女性)
- ・海は万人の宝物である。生き物の成長を助長出来た。・・・(84歳・男性)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■フィールドワーク

【開催日時】平成30年3月5日（日）9：00～12：00

【開催場所】山川港・鰻池

【参加者数】26人（参加者20人・ガイド6人）

【実施内容・目的】

- 特別企画展と関連する鹿児島藩の藩港である「山川港」と「鰻池」で実施した。それぞれの案内役は、指宿まるごと博物館ガイド会に依頼した。
- 「海に学ぶ」内容で構成されている特別企画展に関連する文化財や景勝地を実見ことで理解を深め、「海に学ぶ」効果を高めるためのものである。



フィールドワーク状況①
山川港でのガイド会員による案内



フィールドワーク状況②
ガイド会員による「海の学び」説明中



フィールドワーク状況③
海につながる文化財の説明



フィールドワーク状況④
海につながる文化財の説明

当特別企画展の中核のひとつである「山川港」について、薩摩藩の藩港時代の歴史と指定文化財をはじめとする文化財・名勝地を巡りながら、海とのつながりについて体感してもらうように計画した。フィールドワークに参加することで、「海を知る」・「海を利用する」の理解を深め、自ら「海と人との共生」について考え、行動できるような人材育成の場としても位置づけた。



フィールドワーク状況⑤
鰻池でのガイド会員による案内



フィールドワーク状況⑥
鰻池でのガイド会員による案内



フィールドワーク状況⑦
火山に恵みのスメ体験を楽しむ参加者



フィールドワーク状況⑧
特別企画展に関連する文化財の案内

当特別企画展の中核である「海洋国家薩摩」のテーマに関連する文化財や名勝地を巡りながら、海とのつながりについて体感してもらうように計画した。参加者には、地熱を利用したスメ料理を堪能しフィールドワークに「食」の楽しみをつけた。参加者は、「海を知る」・「海を利用する」の理解を深め、自ら「海と人との共生」について考え、行動できるような人材育成の場としても位置づけた。

【来館者の声】

○質問⑥「『海』を守りたくなりましたか」

- ・とてもそう思う 14人/17人 82.3%
- ・そう思う 3人/17人 17.7%

○質問⑦「そこから『海』についてどんなことを学びましたか」

- ・海が文化発展に大きな力があることを思えた。山川に住んで良かった。・・・(69歳・男性)
- ・海でつながる歴史が良く分かりました。・・・(77歳・女性)
- ・山川の港がとても重要だったのだと思う。・・・(77歳・女性)
- ・(海)が外国との道であった事、鹿児島はすごいと思いました。・・・(79歳・女性)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

【事業全体のまとめ】

- 県内外での資料調査の実施（奄美大島や徳之島，熊本市など学芸員が出張可能となったことで，各教育委員会や博物館と連携することができた）
- 展示資料の増加（県外から展示資料の借用が可能となった）
- 特別企画展（海洋教育推進の場）の周知化（チラシ・ポスターを多く印刷ができた）
- 特別企画展図録の増刷（予定より多く印刷ができ，来館者へ提供することができた）
- 「山川港」について海洋教育の視点で展示パネル作成や図録印刷をすることで，来館者に対して，身近な山川港を改めて【知る】機会となり，山川港を【利用した】文物交流の歴史を理解し，これからも山川港を【守り】，未来に対して山川港と【人との共生】を考えるきっかけとなり，自発的・積極的な活動を芽生えさせることができた。
- 支援事業を実施したことで，市民をはじめ県内外の来館者に，ふるさと指宿が海を通して歴史や文化を築き上げてきたかを認識させることができた。
- 開催期間中の見学者アンケートから，下記質問に対して，（4 とてもそう思う）・（3 そう思う）の肯定的な回答は下記のとおりであった。
 - ① 「展示や行事から『海』を感じることができましたか」
とてもそう思う 118 人・そう思う 121 人 239 人／315 人 75.8%
 - ② 「『海』について学びましたか」
とてもそう思う 110 人・そう思う 130 人 240 人／315 人 76.1%
 - ③ 「『海』に親しみを持ちましたか」
とてもそう思う 115 人・そう思う 115 人 230 人／315 人 73.0%
 - ④ 「『海』のことをもっと知りたくなりましたか」
とてもそう思う 128 人・そう思う 107 人 235 人／315 人 74.6%
 - ⑤ 「『海』は大切だと思いますか」
とてもそう思う 212 人・そう思う 77 人 289 人／315 人 91.7%
 - ⑥ 「『海』を守りたくなりましたか」
とてもそう思う 190 人・そう思う 79 人 269 人／315 人 85.3%上記のアンケート結果から，支援事業を実施したことで，「海洋教育」の各キーワードについて高い効果が得られたものと考えられる。

また，下記のようなアンケートから，支援事業の効果が客観的に看取できる。

- ・海は昔からの貿易や経済発展して今につながり，人口減とはいえ大事にしなければならない。
・・・(44 歳・男性)
- ・第 4 章最期の部分で，これからの「海」を通じての課題を投げかけているところ。歴史から学び自分たちの未来へどういかしていくかを考えることが大切なんだと思いました。素敵な企画展でした！！・・・(37 歳・女性)
- ・海は大切だということ。・・・(11 歳・女性)
- ・海でつながる歴史に感動しました。・・・(75 歳・男性)
- ・海に囲まれた日本たがらこそ海の恵みに恵まれて，また，世界の脅威を海から受けても自ら守ってきた素晴らしさあり。・・・(60 歳・女性)

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 市内小中学校	特別企画展の開催中に、社会科の授業で博物館に見学するよう教育課程に含めてもらった。学校での授業に合わせて特別企画展を展示案内することで、海洋教育のキーワードの【海を知る】・【海を利用する】のねらいの効果を上げることができた。
2. 鹿児島県立博物館	指宿市周辺の海洋地形について、特に、特別企画展の骨子となった「山川港」について、専門員と連携して調査を行った。火山噴火によって形成された天然の良港「山川港」の特性について最新研究成果を得ることができた。 このことで、海洋教育のキーワードの【海を知る】・【海を守る】ねらいの効果を上げる資料が得られた。
3. 鹿児島県歴史資料センター 黎明館	江戸時代の海運業者である浜崎太平次の関連資料について、専門研究員と連携して資料調査を行った。合わせて、市内に残る江戸時代の海運業者にまつわる資料について情報提供を行い、研究の深化を行った。特別企画展の開催中、収蔵資料を借用して展示を行った。 これらのことで、海洋教育のキーワードの【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。
4. 鹿児島県立埋蔵文化財センター	山川港周辺には津口番所と遠見番所、砲台が置かれた。県立埋蔵文化財センターでは大隅半島に設置された砲台跡の発掘調査を行っており、それらの成果について専門員とから最新情報の提供を頂き、パネルや図録に反映した。 このことで、海洋教育のキーワードの【海を知る】・【海を守る】・【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。
5. 鹿児島市教育委員会	幕末に、海外の海を見据え「富国強兵」と「産業振興」により「海洋立国」を目指した島津斉彬について専門員と連携して調査を行った。このことで、海洋教育のキーワード【海を知る】・【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。
6. 鹿児島大学水産学部	指宿市周辺の黒潮の流れについて専門員と連携して基礎的な資料調査を行った。最新の黒潮の流れに関する情報をパネルや図録に反映した。 このことで、海洋教育のキーワード「海を利用する」ねらいの効果を上げる資料が得られた
7. 尚古集成館	江戸時代後半から幕末・明治維新前後にかけて、島津斉彬や西郷隆盛などの海洋を見据えた偉人達について専門員と連携して資料調査を行った。得られた情報を元に、パネルや特別企画展図録を作成した。 このことで、海洋教育の【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。
8. 西郷南洲顕彰館	江戸時代に活躍した西郷隆盛について、専門員と連携して資料調査を行った。特別企画展の開催中、西郷隆盛の遺品や直筆の掛軸などの貴重な品々を借用して展示を行った。 このことで、海洋教育の【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。

9. 奄美市教育委員会	<p>海を渡った西郷隆盛の足跡について、専門員と連携した資料調査を行った。奄美大島での生活の資料が入手でき、パネルや特別企画展図録に反映することができた。</p> <p>このことで、海洋教育の【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。</p>
10. 和泊町教育委員会	<p>海を渡った西郷隆盛の足跡について、専門員と連携した資料調査を行った。徳之島での生活の資料が入手でき、パネルや特別企画展図録に反映することができた。</p> <p>このことで、海洋教育の【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた</p>
11. 熊本市教育委員会	<p>幕末、西洋諸外国から海を渡って輸入された西洋銃が用いられた西南戦争について、史跡や戦跡から出土した銃弾などについて、専門員と連携して資料調査を行った。</p> <p>特別企画展開催中に、収蔵資料を借用して展示した。これらのことで、海洋教育のキーワードの【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。</p>
12. 田原坂西南戦争資料館	<p>西南戦争に関する地域に伝わる遺品や伝承について、専門員と連携して資料調査を行った。</p> <p>特別企画展開催中に、収蔵資料を借用して展示した。これらのことで、海洋教育のキーワードの【海を利用する】ねらいの効果を上げる資料が得られた。</p>
13. 指宿まるごと博物館ガイド会	<p>指宿まるごと観光ガイドと連携することで、当企画展の付帯事業のフィールドワークの効果を高められるようにした。参加者への説明を担ってもらうことで、ガイド会員の育成も兼ねる。</p> <p>このことで、海洋教育のキーワードの【海に親しむ】・【海を守る】ねらいの効果を上げることができた。</p>

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 当市広報誌	<ul style="list-style-type: none"> ・時遊館 COCCO はしむれ特別企画展 平成 29 年 10 月 1 日 ・いぶすきまるごと博物館 136 鰻温泉と西郷隆盛 平成 29 年 11 月 1 日 ・いぶすきまるごと博物館 139 海の関所 平成 30 年 1 月 1 日 ・いぶすきまるごと博物館 140 山川港を拠点とした海商「河野覚兵衛」 平成 30 年 2 月 1 日 ・いぶすきまるごと博物館 141 海上王と呼ばれた男「濱崎太平次」 平成 30 年 3 月 1 日
2. 当博物館フェイスブック	随時更新

以上